



8月10日 1990・No.77

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 552-1855

発行人
田島 弘

ごあいさつ

支部長 田島 弘

私が伝統ある京橋支部の、支部長に就任するなどは、夢にも考えておりませんでした。

支部長就任のお話を承りましたときには、まことに晴天の霹靂とでも申すのでしよう、唯々吃驚いたしました。

さて私自身を顧みまして、さしたる抱負とでもなく、また支部役員の経験も三期六年と短期であります。幸い、今迄は先輩諸賢のご指導により何とか糊塗して参りましたが、支部長となるとそうもなりません。

私の不備を補ってくださる卓抜な力量の方々と考え、現執行部の皆様にお願ひ申しあげ、お引受けを載けることとなり、不肖をも顧みず支部長に就任いたしました。

本部には、田島副理事長、小葉、長島両常務理事を選出いたしておりますのも、力強い限りでございます。組合運営につきましては、お智慧を拝借し、過誤のないよう務めて参る所存でございますが、尚その上にも、顧問・相談役・参与の諸先輩のご指導、組合員各位の

ご協力を戴けなければ到底なし得ないところと自覚し、謙虚に務めて参ります。

本年十月には中央区工団連主催の工業展が規模を新にし、「中央区産業文化展」として盛大に催されます。

印刷関連コーナーには、東印工、東軽工、京橋、日本橋製本が、一つの理念に則って一貫した展示を行ないます。

区内、湊、入船を始め各地区の組合員の転廃業はまことに甚だしく、支部員構成も二四三社となりました。これからの印刷関連、特に中央区における在り方が問われるところですが、日本橋支部、東軽工、両製本組合の皆様共々、一体となつて考えていかなければならない日も遠くないように思われます。

また九月三日の敬老の集いを始め、印刷組合百年記念式典が執り行われ、当支部より十四名の印刷産業功労賞の表彰があります。

まことに御同慶に堪えないところでございます。この功績ある先輩諸氏、また平成四年には七十周年を迎える光輝ある京橋支部の歴史を痛感し、執行部一同懸命の努力を傾注いたします。なにとぞ御鞭撻を願ひあげ、ご挨拶いたします。

平成 2 年通常総会開催

田島新執行部誕生

5月15日於・中央会館



京橋支部通常総会は5月15日(火)午後六時より中央会館において開催された。好天にも恵まれて支部員の均に当る約80名が出席、増田副支部長の司会のもと、長田副支部長が開会の言葉の中で、「この2年間の長いようで短く感じたのは我々の年代のせいでしょうか」と、感想を述べて、開会を宣し、大竹支部長は次のようにの

べた。「支部員数の減少が続いているとはいえず、2年続きの赤字決算になったことは、大変に申し訳ない次第です。昨年の通常総会で、京青会10周年記念賛助会費の徴収に関して、事前の周知が不十分だったためか、大変紛糾して、我々の不手際から、ご迷惑をおかけしました。」又支部運営にあたり支部員各位のご協力に謝意を表明して退位の挨拶とした。次いで、議長と書記の選出が諮られ斎藤収夫氏が議長に、松川昭義氏が書記に選出された。



荒木副支部長が第1号議案の平成元年度事業報告の主な項目を説明。第2号議案、同収支決算報告を、瀬戸副支部長が説明。続いて同監査結果が小林一夫監査により報告された後、第1号、第2号議案の質疑応答に移り、八千代印刷(株)石曾根氏より収支予算案を含めて。質問があった。第1号議案、第2号議案は拍手で承認され、第3号議案の平成2年度事業計画(案)は荒木副支部長により、主な施策6項目が読み上げられ、又第4号議案の同収支予算(案)が瀬戸副支部長によって解説され、この予算(案)作成に当っては田島次期支部長も含めて作成した旨の説明の後、第2号議案、第3号議案の質疑応答に移り、先の石曾根氏より、「決算、予算を含めて、大変厳しい数字となっております、組合員の減少や諸経費の値上がり等、これでは満足な事業も遂行できないので、この際6%位の支部費値上げをすれば丁度、見合う額になるのではないかと、又、「小山・大竹支部長と4年間2期に亘っての関連業から広告収入は受けたいという、クリーンな慣行を維持していくためにも、この際支部員に諮って、支部運営に支障を来さないよう健全な財政にすべきではないか」と提案された。これに対して大

竹支部長は、「大変貴重なご意見で有難いことです。本来ならそうするのが本筋であることは重々承知しております。事業報告書の中の関連業界協賛金については新年臨時総会において、関連業界の会費、祝金等として入ったものが残ったわけで、予算案についても同様、従来、地方で行う新年臨時総会を都内で行って経費の節減を図り、関連業界協賛金として計上しているわけです。支部費はすぐ上げる事は出来ませんので、少ない支部事業費でも、一部の企業に受益者負担という形でとる事が皆様にとつてもよいのではないのでしょうか」と答弁し、石曾根氏は「私の質問に対する何らかの措置をとって頂けると有難いのですが。」と希望を述べた。

斎藤議長は他に発言を求め、現執行部の中山副支部長が応えて、次のように述べた。

「石曾根さんの提案も一つの方策ですが、私は以前の執行部が行った方策をそのまま踏襲する事はないのではないかと、2年続けて赤字を出しているのです、次の執行部でその対策として広告収入をもって対処するのも止むを得ないのではないかと思います。又支部費の値上げをするにしても来年の総会に提案してからという事になると思います。」と答えた。斎藤議長が「この件は、次の執行部で必ず検討していく事にします。」と述べて、採決を求めて、拍手多数で、第3号議案、第4号議案も承認された。

次に第5号議案として、次期役員推薦経過報告が石沢推薦委員長から次のように報告された。「去る1月26日の支部新年臨時総会に於て推薦



委員長に推されまして、規約により推薦委員は部長会の指定に基づき指名するとあるので、2月5日部長会を開いて載き、席上出席部長と協議の上推薦委員を顧問・相談役・参与から、斎藤、小宮山、小栗、田島、長島、部長・地区長より大竹・荒木・松川の各氏に私を加え9名で構成し、2月16日第1回の推薦委員会を開き、推薦の考え方を検討し、京橋支部は9地区で構成されているが、このところ支部長を出していない地区から選んでとの提言があり、又組合は、協力、協調が前提であり、組合員の連帯的地位の向上を図るのが目的でありますから、そ

れらを踏まえて支部の運営に経験のある方が必要ではなからうかという結論になりました。その後2回に亘り推薦会議を持ち、支部の役員として、又本部の役員としても深い経験をお持ちの湊地区、聖文社印刷(株)、田島弘氏を支部長に推薦致しました。」と報告され、斎藤議長は「只今の石沢委員長の田島新支部長ご推薦にご賛同であれば、拍手をお願いします」との声で、拍手多数の内に、田島弘新支部長が選出された。田島新支部長は「只今は石沢委員長より過分なおほめの言葉を戴きまして壇上へ上る事になりましたが、私には大変荷の重い2年間であろうと思います。」

今迄も皆様ご承知のように、大変難かしい状況であると思います。私のような年かさね者がやってゆけるかどうか、心配がございまして、大変固辞したのですが、どうしてもという事でお引受けしたような次第です。幸い副支部長に人材を得ましたので、私の足りないところは補って戴きまして、これからの二年間をやってゆければと思っております。皆様の絶大なご支援をよろしく願います。」就任の抱負と挨拶の後、副支部長には築地地区、近藤正弥氏、入船地区、佐藤勝男氏、湊地区、中山英男氏、八丁堀地区、小倉昭夫氏、監査には銀座地区、永島洋二氏、新富地区、石塚能章氏を紹介して、拍手の内に承認された。斎藤議長のお礼の言葉で議事も全て終り、次いで来賓挨拶には東印工組の塚田新理事長が印刷業界の諸問題について次のように述べられた。

「本日は京橋支部の総会が無事終了し、心からお祝い申し上げます。私はこの春就任したばかりですが、業界運動は30年位続けておりますので古いのですが、長い間日本印刷技術協会の会長をやっていましたので組合行政から一寸離れておりましたが、又出て来いとの事で、お役に立つかどうかと思いつながら、又お勤めさせて戴く事になりました。お引受けした以上は業界のため努力を致したいと思っておりますが、まだ就任早々ですので全国の問題や印刷産業全体の問題については今後の課題ですが、今日は現在抱えている問題を二つばかりお願い申し上げます。一つは今年の秋印刷組合が創立して、百周年になります。百周年記念行事の一環として、物故者慰霊祭や記念式典を行います。ご存知のようにこの百年というの



は、戦争やインフレ、不況があつたりと、大揺れに揺れた大変な百年でありました。その中で多くの産業や会社が浮き沈みをしたわけであります。私共の印刷産業が、今日無事に、しかも21世紀を目前にして、それも何とかしようという意気込みを持ちながら、次の百年を展望し、百周年を祝えるということは大変に喜ばしいことです。先輩各位の、又組合員皆様のご努力のお蔭でこの百年を迎えられる訳ですから、そうした先輩の方々に厚くお礼を申し上げなければなりません。これを機に皆の誓いを新たにしたいという意味でこれらの行事を催し、お祝いをしたいと存じます。何しろ印刷の百周年というのはほんとに嬉しい事だと私は思います。もう一つの問題はご存知のように人手不足が激しくなったのが一つ、そして地価の高騰が一つとで、この中では都内で特に都心地区を中心にして印刷の供給力もどんどん減る一方です。昨年の暮れから週刊紙、カレンダー、手帳が間に合わなくなった。この春になって教科書も間に合わない、ここでNHKや各日刊紙でも取り上げて、一斉に印刷物が間に合わないと騒いでいる状況です。私も就任早々これは何とかしなくてはと思っていたのですが、日産運や大手の所も動き出しそうにないし、通産省もこの間国会で質問されると問題なので調査するように日産連に指示が出ましたが、これから実態を調べて集計をしていたのでは供給不足は解消しませんので、人手不足も同様です。これらを解決するにはやはり必要な料金を戴かなければ

なりません。トラック運賃も皆様の所へ値上げ要請がきていると思いますが、これに応えてやらねば車は動かないのですから。製本屋も折り屋も人手がなくて困っているわけですから、どうしても値上げを認めてやらないと本もできないし、印刷物も間に合いませんですから値上げをして間に合う事なら値上げをしなければなりません。私共が一方では供給責任があるわけですから、印刷業界としてユーザーの皆様方に印刷物を間に合せるというのは印刷産業としての使命であると思っております。そのために産業として組合が動かないとあつては皆様方に申し訳ないことですから、東印工組は別個の動きをしなければならぬと思っております。急拠手を打とうと思っております。皆様方が得意先にいるんな物を出すのにそれを支援するためにも何とか急がなければと思うわけです。皆様方と、お金で供給力が片付くことなら、供給力を増す努力を考えた方がよいと思つているわけです。この二つは緊急の課題ですので、皆様方と歩調を合せてやってゆきたいと思つたので宜しくお願い申し上げます。私は組合を運営する上での基本的な考え方は、よく言う事ですが、棲み分けをする状態にしたいと思つているわけです。東京都の組合員が約2,800社ありますが、皆がやみくもに競争しないで、お互に自分の得意先を大事にしなごう。その上で皆事業がうまくいく方法を何とかやってゆきたいと思つた。業者それぞれがどうすればお客さんを大事にして守れるかという事が大切です。

私は印刷業界というのは大変よい業界だと思っております。もし大きな会社だけが強くて、他の産業のように、会社が大きければ強いのだとすれば、もうとつくに大日本、凸版にみな吸収されてなくなっている筈ですが、30年間この業界をみていても、今迄大日本、凸版、共同等の上場会社の売上げが印刷業界全体の30%を越した事は一度もない、最近はずっとパンムア等の子会社を入れると31%位になったでしょうか一寸増えて来ましたが、この業界は大手だけではやってゆけない。我国全体では3万4千5千の印刷事業所があり、業者数でいえば1社で213の事業所を持っていますので、会社数にすれば、2万5千6千社かと思われます。東京都内では非組合員も合せると5千社位あるのですが、それぞれの分を持ちながら棲み分けていける産業という点では良い産業だと思っています。ただ世の中はどんどん変わるものですから環境も変わるし、21世紀には情報化社会になる事は間違いございません。

そうなればコンピューターだらけの社会になり、お客の方がそうなるので、印刷の側も当然そうなります。私は今回のドルツパから帰国したばかりですが、やはりドルツパで観られるものはカラーで、文字と同居するむしろカラーの方がどんどん増加する世の中になるのですからカラーを上手に扱える業者になるか、でも日本は世界一カラーの印刷はうまいと思っておりますが、もっと要領よくカラーを取扱うにはどうしたらよいかと、いろんな問題や企画、デザイ

ンの問題もあります。印刷物はどこで刷っても今はきれいに出来る時代です。大手よりもむしろ、上手に刷れる位だと思います。問題は印刷物のデザインとか企画とかでしょう。

同じ飛行機でもファーストクラスとエコノミークラスは料金が倍以上違うわけです。乗って向うへ着くのは同じでも、受けるサービスの違いは3倍の料金を取っても皆結構利用するのですから、私共のこれからの印刷業界のありようは棲み分けの仕方が違う、技術が違うのだと思っております。

これから勉強もさせて戴いて、もっと棲み分けのうまい方法はないものかと努力するつもりでありますので、京橋支部の皆様方は組合本部の所在地であり、そしてそれは日本全国の所在地でもあるという意味でも皆様のご努力をお願いいたしますし、当支部から田島副理事長、長島、小葉の常務理事のお出ましを戴いて、ご協力願っているわけですので、今後とも皆様方のバックアップをお願い申し上げます。有難うございました。」と挨拶され、つづいて、中央区矢田区長は「中央区の矢田です。日頃は皆様には暖いご支援を戴き感謝申し上げます。本日は支部総会にお招きを戴きまして有難うございます。例年支部総会でいろいろの声を聞くわけですが、毎回熱心に討議される事に、皆様方の愛情をもった熱意があるわけで、そうした熱意を受けまして行政の方も本年度は中小企業振興基本計画を発表、昨年実施しました調査をもとに施策するわけです。10月には従来の工業文化展

平成2年 東印工組京橋支部通常総会



を拡大しました産業文化展を開催する予定であります。この産業文化展の中心は印刷工業組合でありまして皆様方のご協力、ご来場をお願い致します。又先程、大竹支部長以下執行部の皆様、2年間に亘る任期ご苦労様でございました。又田島支部長を始めとする執行部の皆様方、先程ご挨拶にありましたように地価の高騰、人手不足等、環境厳しい中でありますが、どうか負

ける事なくこの印刷工業の発展を願う次第です。今後共よろしくお願い申し上げます。有難うございました。」と挨拶を述べられた。

総会は中山副支部長の閉会の言葉で無事終了し、懇親会へと移った。

一時間に亘る総会を終えて、出席者は寛いだ表情で、早速懇親の輪をつくり、児玉工団連会長の乾杯の音頭で一同、喉を潤して、歓談の一時を過ごしました。



宴半ばでは、前副理事長の小宮山相談役が中締めで挨拶をして支部員のご協力に感謝の意を表した。中締め後も、しばらくは皆、思い思いに話に興じていましたが、8時過ぎお開きとなりました。

(岩本)

地区新役員紹介 (敬称略)

京橋地区長 坂田 利正 秀英堂紙工印刷(株)

同 幹事 尾島賢一郎 三徳印刷(株)

銀座地区長 小西 正雄 (有)小西商店印刷所

同 幹事 松岡誠一郎 (株)文海堂

同 幹事 渡辺 裕雄 (株)近代社

同 幹事 植木 重光 日本浮出印刷(株)

新富地区長 宮入茂三郎 オカムラ印刷(株)

同 幹事 木島 照夫 ダイ・コー印刷(株)

同 幹事 竹山 宗次 (株)シール竹山

築地区長 今竹 茂 福田印刷工業(株)

同 幹事 神田 範世 (株)永和堂

同 幹事 武井 準 土井印刷(株)

入船地区長 永井 直裕 永井印刷工業(株)

同 幹事 中島 安信 中信社中島印刷(株)

同 幹事 宇留野修一 文集社印刷(株)

同 幹事 加瀬 英雄 文寿堂印刷(株)

同 幹事 青木 綾子 亜土印刷(株)

同 幹事 奥村 孝道 (株)オクムラ

湊地区長 関根 勝 日昇印刷(株)

同 幹事 浅野 知一 協和美術印刷(株)

同 幹事 松川 昭義 松川印刷(株)

同 幹事 中村 英雄 (有)ミナト印刷社

同 幹事 山本 庄一 湊印刷所

同 幹事 青柳 晴男 (有)青柳印刷所

同 幹事 八代東海夫 八代印刷工業

同 幹事 宮川 良一 (有)宮川印刷

同 幹事 寺町 利郎 興文堂印刷(株)

八丁堀地区長 大橋 昭 (有)大橋印刷所

同 幹事 萩谷 寛 (株)山口文洋堂

同 幹事 藤井 賢一 昭和印刷(株)

同 幹事 宮間 元治 宮間印刷(株)

同 幹事 浜野 秀世 (株)三田村印刷所

新川地区長 伊坂 元延 伊坂美術印刷(株)

同 幹事 荒井 和男 (株)荒井美術

同 幹事 石川 毅一 (有)一星社印刷所

同 幹事 吉田 秀利 (有)吉田印刷所

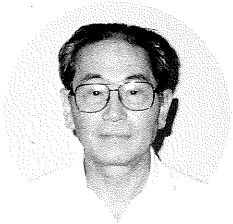
同 幹事 中庭 修 中庭印刷(株)

同 幹事 江田 幸雄 江田印刷(株)

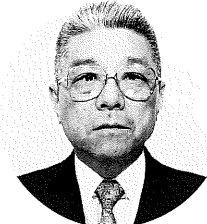
月島地区長 室田 利一 室田印刷(株)

同 幹事 石曾根啓悦 八千代印刷(株)

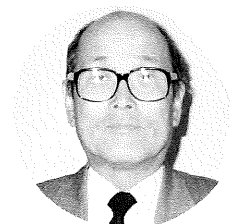
平成2・3年度京橋支部執行部



副支部長
中山英男
(有)中山印刷所
(総務)



副支部長
近藤正弥
(株)日刊食料新聞
(総務)



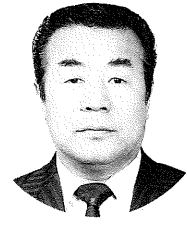
支部長
田島弘
聖文社印刷(株)



副支部長
石井泰明
石井企画印刷(株)
(総務)



副支部長
小倉昭夫
(株)相互美術印刷本社
(総務)



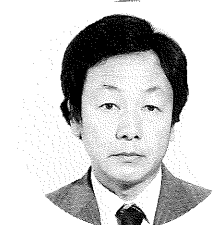
副支部長
佐藤勝男
文寿堂印刷(株)
(会計)



事務局書記
岩本久人
東印工組京橋支部



監査
石塚能章
大文堂印刷(株)



監査
永島洋二
冬水印刷所(株)

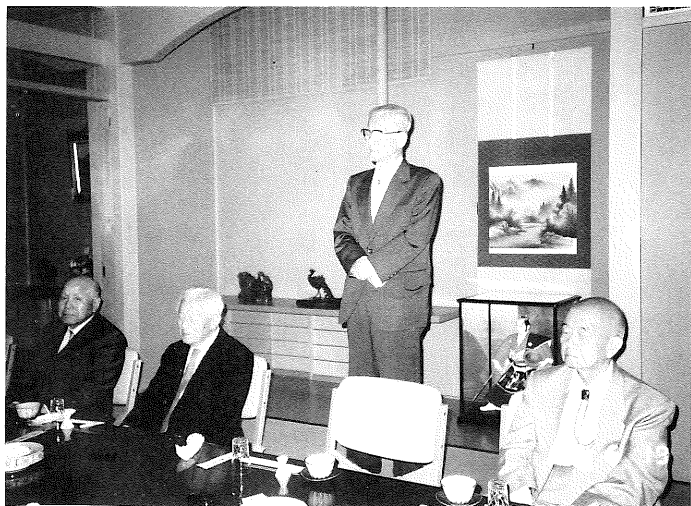
”顧問・相談役・参与の会“開催



6月19日(水)、5時から八丁堀”あわや“において、田島新執行部による顧問・相談役・参与の会が開かれました。田島支部長は挨拶のあと、

当面の運営について次のように報告、諮問が行われそれぞれ承認されました。

- 1、東京都印刷工業組合百周年事業について
 - ・物故者慰霊祭、9/4、11時、築地本願寺 京橋支部の物故事業主145名
 - ・記念式典、9/20、17時、帝国ホテル
 - ・本部役員対象表彰候補者
 - ・印刷産業功労賞—斎藤喜徳氏・白橋龍夫氏・中村謹吾氏
 - ・印刷組合功労賞—大谷家清氏
 - ・支部役員対象表彰候補者
 - ・印刷産業功労賞—支部長経験者12名、京橋支部役員経歴15年以上の表彰対象者はなし
- 2、支部運営について
 - ・支部組合員名簿に広告(関連業者・支部員)を掲載
 - ・支部報にも広告掲載をしたい
 - ・中央区産業文化展の開催、10/18、10/23 日本橋プラザ(丸善の裏)
 - ・新年臨時総会々場については箱根か熱海に会場を設営したい
 - ・次期支部長候補者の早期推薦については、来年の通常総会で推薦委員を決めて来年中に候補者を決めたい



- 3、顧問・相談役・参与の委嘱について

顧問として新たに片岡義郎氏(共立印刷)、久保田幸一郎氏(東京真宏印刷)、小宮山敬之氏(小宮山印刷)の3氏を委嘱、相談役に新たに、大竹次郎氏(大竹印刷所)、田島一弥氏(久栄社印刷所)の両氏、参与には、新たに長島一磨氏(大秀社)、金山耕二氏(金山印刷)、大谷家清氏(一九堂印刷所)の3氏が田島支部長より委嘱され、合せて顧問10名、相談役の9名、参与12名となりました。

京青会定時総会開催

4月6日(金)京青会定時総会は築地スエヒロで開催され、支部から大竹支部長・荒木副支部長が出席した。6時30分松岡会長の挨拶で始まり、決算報告、10周年記念事業報告、予算案等が可決されて、次期役員の紹介が行われ、席上大竹支部長は「印刷の枠内にとどまらず、広く見る目を持って欲しい」と激励の挨拶をいたしました。終了後なごやかな懇親会が開かれ、一同楽しく歓談をしました。新会長は小倉哲也氏。



入船地区総会 5月22日(火) 於・銀座キャピタルホテル

入船地区の総会が銀座キャピタルホテル、ローズルームにて、地区組合員が約25名程参加して開かれました。

田島新支部長が招かれ、「これから2年間、皆様のご支援のもと頑張ってゆきたい、当入船地区から、文寿堂印刷(株)、佐藤勝男さんに副支部長として会計を担当して頂くことになりましたので、よろしく願います」と挨拶をしました。

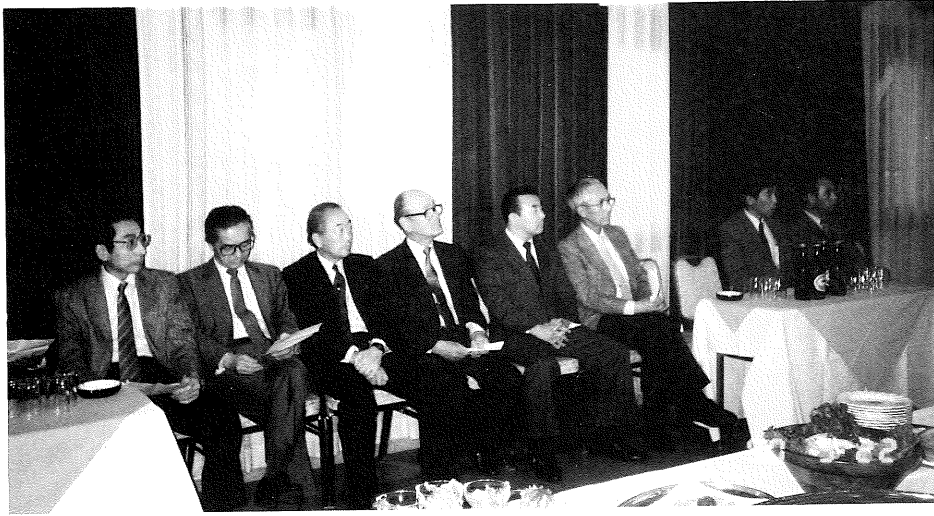
総会は斎藤前地区長が、会計報告を行って、承認され、懇親会では、佐藤新副支部長の音頭で乾杯、一同顔なじみ仲間だけに、和気あいあいのうちに過ぎました。

会半ばで、小栗相談役が参加、挨拶の中で「本部常務理事としてもう一期頑張ってゆきたい」と抱負を述べました。最後に永井印刷工業(株)、永井直裕新地区長が紹介されて、長田前副支部長、斎藤前地区長の労をねぎらい、中信社中島印刷(株)中島安信氏の中締めにより閉会となりました。

転入組合員

(株)ツカダノンブル 塚田守氏

湊地区より入船地区へ転入されましたので、地区員は32社となります。



閑話休題

紫陽花の花が色あせて、やがて真夏がやってくる。両国の花火と共に想い出される土用の丑の日、万葉集に「石麻呂に我もの申す 夏やせによしといふものぞ 武奈伎とり召せ」という歌があります。大伴家持の歌です。吉田石麻呂という人がやせっぽちで、いくらたべても飢えた人のようなので、家持がたわむれに作った。と前書があります。「武奈伎」は「胸黄」のこと、ウナギは胸ビレのあたりが黄色いからだといわれています。ところが、あの丑の日の仕掛人は彼の有名な平賀源内であるといえます。なにしろウナギのいけすは、夏になると、水温が上がり青粉が増えるため、ウナギは次々と死んでしまいます。ウナギ屋にとって大ピンチのシーズンです。そこでウナギ屋は、知恵者で知られる源内先生に「夏にウナギを売るいいアイデアはないものしょうな。」と伺いをたてたところ、そこは源内先生のこと、前述の古歌をヒントに、陰陽五行説から丑は土に属し、土用の丑の日に相通じると。そこで、「本日土用丑の日」と墨痕鮮やかに書いたところ、これが当たり前して、なんと今日にまで及んでいるとか……さて食通といわれる御仁はいつの時代でもいたとみえて、天保七年刊の為永春水の「春告鳥」に、「ドレ、お肴を、といひながら蒲焼のふたをとり、魚尾の方のうまいところをまづ二、三本小皿へとりわけ……」、又おなじ作者の「春

色梅児誉美」。「天保三年」では「アアあすこにウナギやがある。アア久し振りだから一緒にまんまでもたべよう。アイまあ、中ぐらいなのを三皿ばかり焼いてくんな」このあたりにして、ウナギは中申、しっぽのところがおいしいというのが通の通説であったようです。また「三皿」と注文していますが、当時江戸では蒲焼は磁器の平皿に盛って出していたからです。ウナギと云えば蒲焼ときまっていますが「かばやき」の語源は「守貞漫稿」に「古は鰻蒲焼という名のあるは鰻を筒切りにして串にさして焼きしなり。形蒲穂に似たる故の名なり」とあります。開いて焼くようになったのは文化文政のころといわれています。そして江戸の末ごろから関西風と関東風では開き方が反対になったとも

人は幸せに向って動く

日刊食料新聞 7/6 日付

▼「草木は太陽を目指して伸び、水は低きに流れ、人は幸せに向かって動く」▼これをしみじみ感じさせたのが去る一日付の新聞だ。東西ドイツの経済統合を一齐に報じた各紙一面のトップには、「幸せに向って動く」人間の熱気がムンムン▼特に印象的だったのは、西ドイツ・マルクを求めて銀行に殺到した東ドイツ市民の写真である。超特大活字をあしらった地紋の見出しよりも、一面の半分を塗りつぶした記事の羅列よりも、紙面の一角に刷り込まれたこの写真のほうに数段の説得力と迫力があった▼まさに「幸せに向って動く」人波である。東西ドイツを分断したベルリンの壁が崩

いいます。関西では腹開きにして身の方から焼き初めます。関東は背開きにして両面を素焼きにしてから一度むし、たれをつけて焼き上げます。むす分だけ油が抜けて味が淡泊になります。小学校の頃、母がよく八ツ目ウナギを焼いて喰べていた事を思い出します。夏ばてしたお老人、ビタミンAが不足し夜盲症になりがちこれによくきくという。さてウナギの蒲焼屋さんこの店の味はそんなに変らぬが値段の方は高いところ、安いところ、相当な格差がある。看板で高いのか場所であるのか？つかみどころがない。私たちの業界もアヤカリたい……。ウナギのぼりとまでは……いわないが。

(京橋地区 坂田利正)

れたのは昨冬十一月九日のこと。そして、こんどは、経済統合が実現した。年内にはさらに政治統合への進展が見込まれている。――草木が太陽を目指して伸び続けるのを止めることができないように、――水の低きへの流れを止めかねると同じように、人間が欲する「幸せへの動き」もまた何人たりとも止めることはできない▼もう一つ、このできごとは「金の価値」への興味深い一石ともいえる。つまり、「金で幸せは買えない。金はせいぜい気をまぎらす程度が効用の限界である」とした従来の定義を、「イヤ、そうじゃない、金は幸せをも買えるぞヨ」と、この現実を明快に修正したということである▼東ドイツ市民の慣れまでにはかなりの時間が必要。ともあれ「幸せへの動きに停滞」あらざらんことを――。

(妙竹輪)

最近の DTP について

銀座地区 小西 皓三

DTP (デスク・トップ・パブリッシング) は最初文字から出発し、線図が入り、中間調が入り、カラーと発展して来た。ここ 2、3 年のことであり、如何に進み方が早いか驚かされるところである。それ故にハードとソフトは別けて考えた方が得策と思う、そこで先づ

ハードであるが毎年 5 月頃に新製品が発表されている。表示部が最初 TV のブラウン管から板状の液晶になり、携帯型ラッシュユである。

一足先の東芝 (Dyna Book 286)、続いて NEC 980 INS は 386 SX パソコン初の 32 ビット機の出現となった。性能が上がり小型され価格も超廉価へ向っている、条件として

①多くのソフト (プログラム) が使用可能なこと。②多くの台数が販売されていること等を考慮すると NEC 98 シリーズがよさそうだ。多くのソフトを使えるように 2 つの CPC (中央演算機能) を積み、他と競争しなければならぬため価格もおさえてある。息の長いハードと思う。

CAD (製図機能) を早く働かせるため EWS の戦が始まり、ソニーがややリードということころだろう。

ソフトはハードが進歩してもバージョンアップ

(改良) し、ハードについてゆけるソフトが必要である MS-DOS の 640KB の壁を取りはらった大規模プログラム用に最新 C コンパイラが各社から発表された。

C 処理系の新版は 89 年 9 月ラティス C 6.0、89 年 11 月 zortech C++ 2.0、90 年 4 月マイクロソフト 6.0、5 月ポランドターボ C++ 7.0、5 月ソスレベルデバックを可能にしてきた。始めにターボデバック 1.0 で 80386 の仮想 8086 モードを使った。今年 6 月の最新ではターボデバック 2.0 は、CPU を広げ 80386 と 80286 も利用出来るようになり、京都マイクログラムマイクロコンピュータがパートナー S/386 30 で同様の対応している GUI (グラフィックユーザーインターフェース) 視覚環境下のボタンクリックシステムの採用が定着しつつある。

次に 16 ビットから 32 ビットとなると機能を完全にいかすため時間まちと思つてよい。

普通プログラムは MS-DOS で動作するものがほとんどといつてよいが、これのプログラムエリアは 640KB という制限がある。これをどうやって拡張するかが問題であったが今年 6 月新発売になったデザインオートメーションの CAD PAC Station はこの壁を超えて無限プログラムサイズを実現させた。

高価なワークステーションの分野に廉価のパソコンが入ったことにより出来るようになったことは素晴らしいことである。

支部の動き

3月7日(水)中央区工団連にバス見学会、於・板橋プリンティングプラザ、品川テクノ協組
3月23日(金)中央区産業文化展準備会、於・中央区役所

3月23日(金)臨時部長・監査・地区長会、於・伊豆山、水葉亭、会費一万円

3月31日(土)築地居留地展閉会、於・築地区民館

4月6日(金)京青会定時総会、於・築地スエヒロ

4月11日(水)京橋支部会計監査、於・支部室

大竹支部長、小林両監査出席

4月16日(月)次期支部長申し送り打合、於・支部室、大竹支部長、田島氏出席

5月15日(火)部長・監査・地区長会、於・中央会館、通常総会進行打合せ

5月15日(火)京橋支部通常総会、於・中央会館

支部員 80 名出席、本部参照

5月19日(土)製本工組京橋支部総会、於・箱根湯本ホテル、中山副支部長代理出席挨拶

5月22日(火)部長・監査・地区長会、於・支部室

田島支部長挨拶、今後の運営を検討する

5月22日(火)入船地区会、於・銀座キャピタルホテル、田島支部長出席

5月23日(水)支部会計引継ぎ打合、大竹・田島新旧支部長及び瀬戸・佐藤両会計担当出席

5月23日(水)本部総代会、於・霞ヶ関ビル

5月24日(土)中央厚生事業協組総会、於・蠣殻町

ロイヤルパレス、田島支部長出席

5月31日(木)中央区工団連總會、於・中央会館
 6月7日(木)中央区産業文化展印刷製本分科会、
 於支部室、各委員出席

6月7日(木)本部支部長会、於・印刷会館

1 本部事業推進について協議事項

・組合百周年事業について

物故者慰霊、9/4、11時、築地本願寺、百周年記念式典、9/20、17時帝國ホテル同記念パーティ、9/20、18時帝國ホテル

・「お得意様へのお願い」について

5/末各組合員宛直送、封筒は支部配送

・生命共済配当金の配布方法について、
 ・「敬老の集い」9/6、10時半明治神宮、参集殿

6月10日(日)11日、中央区工団連宿泊研修旅行、

於・長野県上諏訪温泉、ホテル山田、講演
 会長野島の産業について、翌日工場見学、
 養命酒、駒ヶ根工場見学帰京

6月13日(水)臨時部長会、於・支部室、産業文化展、支部運営等検討

6月19日(火)顧問・相談役・参与の会、於・八丁堀あわや、22名出席、会費1万2千円

6月27日(水)中央区産業文化展第1回実行委員会、
 於・日本橋プラザ、各委員出席

7月5日(木)本部支部長会、於・印刷会館、田島支部長出席。

支部員の異動

加入組合員

・(有)コツシー、八丁堀1-11-1、電話52-9761、島田重光殿
 転入組合員

・町田印刷(株)、町田實殿が板橋支部より銀座2-13-19、電話546-3181へ転入されました。

所在地移転

・ツカダノンブルは、入船3-4-7へ移転し、入船地区へ所属しました。

・(有)大和総合印刷(湊地区)は、八丁堀3-15-6、酒井ビルへ移転し、八丁堀地区へ所属しました。

慶 事

・東京真宏印刷(株)社長長男、久保田隆一郎氏御結婚(4月)
 ・(株)シール竹山社長長男、竹山房雄氏御結婚(6月)

お悔み申し上げます

・京橋地区、小宮山印刷(株)会長、小宮山庄左衛門殿が御逝去されました(3月)
 ・湊地区、(有)宮川印刷社長、宮川竹蔵殿が御逝去されました。
 ・入船地区、大澤印刷(株)会長、大澤忠義殿が御逝去されました。

編集後記

はやくも大暑を迎えて、空梅雨の今年は平年の約半の降雨量しかなく、今から水不足が心配される一方、電気の供給量も折からの猛暑で、需要量がうなぎ昇りで、間に合わなくなりそうとかで、産業界の操業にも支障が出るのではないかとの声が聞かれます。

さて「京橋の印刷」も新執行部が5月中旬に発足後、6、7月には出す予定でしたが8月となり、新役員の紹介が遅れて申し訳ありません。77号は通常総会の報告の他、京橋・銀座両地区の担当で両地区の地区長さんの寄稿で、閑話休題と最近のDTPについての話の掲載となりました。今期も「京橋の印刷」の原稿は各地区へ順次廻り持ちに担当して戴く事になりましたのでよろしくお願ひ致します。

当京橋支部もここ数年、組合員の減少が続きましたが、ここへ来て何とか足踏み状態で、本社や営業部門の事務所は都心に残して、工場は郊外へ移転するケースは続いています。これも情報化社会となり、又人手不足も重なって、必然的に都心に、人が集まり効率的な時間の使い方を使えざるを得ないでしょう。今後も印刷業界の中心地として、京橋支部員の増強が待たれる次第です。

(岩本)